



家族経営の農家が農福連携の取組を行うことで、栽培面積の拡大、労働力不足の改善、収益の向上などを実現し、農業経営が安定化。

基本情報

- 所在地：静岡県浜松市
- 団体名：ひらまつファーム
- 選定表彰：－
- 主力商品：ミニトマト、レタス、とうもろこし等
- 取得認証等：認定農業者



ひらまつファームとスマイルベリーのメンバー

取組の概要

- 地域の福祉事業所、NPO法人スマイルベリー、多機能型事業所ひだまりのみちへ野菜の栽培から収穫に至るまでの農作業を委託。
- 新たな治具の開発、各作業ごとのマニュアル作成など、環境を少し整えることで作業効率が飛躍的に改善。
- 農場での作業を障害者の個別支援計画に明確に位置付けることで、障害者一人ひとりの成長につながるよう支援。
- 農園を近隣の幼稚園や福祉事業所の利用者にも開放し、収穫体験を行うほか、NPO法人スマイルベリーが所有するカフェや加工場へ生産物を提供するなど、多方面での連携を実施。



定植作業の治具

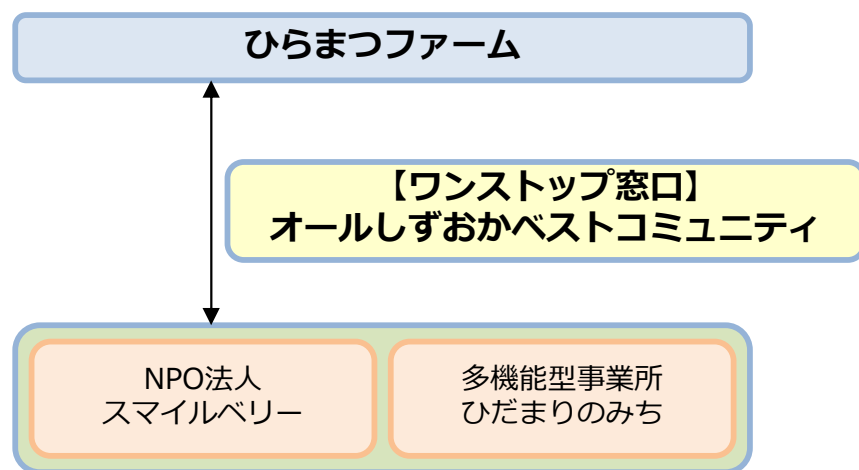


定植機での作業風景



ミニトマトの脇芽取り作業

体制図



取組の成果

- 農福連携に取り組むことで収益向上・栽培面積拡大につながると同時に時間的な余裕も生まれた。
耕作面積：令和3年 1.5ha → 令和4年 1.8ha
売上高：令和3年 1,300万円 → 令和4年 1,560万円
- 受入障害者数は2年間で13名となっており、今後も受入人数を増加させる予定。
- 治具などを導入することにより、1名の定植時間が220本/時間から、280本/時間となるなど、作業効率が大幅に改善。

所在地 ▶ 静岡県浜松市北区新原2040-3

連絡先 ▶ TEL:053-582-7272 E-mail:hf-10ma10@outlook.com

ウェブサイト ▶ <https://fresh-yasai.com/>

【取組のプロセス】

令和3年

きっかけ

新型コロナウイルスや資材費の高騰、局部的豪雨の影響など、農業経営に行き詰まり、県西部農林事務所に相談したところ、農福連携の提案を受けたことから障害者の受け入れを開始

農福連携の取組

- 家族経営で行き詰まっていたが、農福連携に取り組むことで、農業経営の改善に成功。
- 栽培面積がミニトマト1.5倍、とうもろこし1.3倍、レタス1.5倍に拡大。
- 栽培面積が増加したことで、委託先の福祉事業所も増加。



ミニトマトの脇芽取り

地域との連携

- 地元の教育機関とも連携し、今後農業を担っていく学生に農福連携の現状、課題を知ってもらう機会を創出。
- 今までは廃棄していたミニトマトを、連携先のNPO法人スマイルベリーが引き取りカフェで提供するキッシュのトマトソースに活用。



廃棄トマトを利用したキッシュ

事例発表

- 令和5年2月に静岡県が主催した「農福連携シンポジウム」において、「0からの農福連携」と題して農福連携の取組を発表。



シンポジウムでの発表

農福連携の広がり

- 自身の成功により、地域で新たに農福連携を開始した事例があり、農福連携コーディネーターが順番待ちとなるほど地域で農福連携への関心が高まっている。自身の農業経営を見直すきっかけとなった農福連携が、地域にもっと広まり、農業経営に行き詰っている農業者の助けとなる存在を目指す。



レタスの収穫体験

今後の展望

新型コロナウイルス、資材高騰、局部的豪雨などの影響

農福連携の取組を開始したことで、農業経営が改善され、耕作面積が増加し、これに伴って受け入れる障害者の人数も増加